

問題 18-2 マンデル = フレミング・モデルの計算問題

ある小国の経済が、変動為替相場制の下で、次のように示されているとします。

$$C = 100 + 0.7Y - 500r$$

$$EX = 40 + 0.7e$$

$$IM = 60 + 0.1Y - 0.3e$$

$$Y = C + I + G + EX - IM$$

$$L = Y - 250r$$

$$L = M$$

Y: 国民所得、C: 消費、EX: 輸出、IM: 輸入、
L: 貨幣需要、r: 国内利子率、e: 自国通貨建て
為替レート、M: 実質貨幣供給量

Y: 国民所得、C: 消費、EX: 輸出、IM: 輸入、L: 貨幣需要、r: 国内利子率、e: 自国通貨建て為替レート、
M: 実質貨幣供給量

今、国際利子率が 2% で、国家間の資本移動が完全である場合、均衡為替レートが 2 のとき、
投資 I と政府支出 G の組合せとして妥当なものはどれですか。

なお、実質貨幣供給量は 300 とします。

| | 投資 I | 政府支出 G |
|---|------|--------|
| 1 | 10 | 1 |
| 2 | 20 | 5 |
| 3 | 40 | 10 |
| 4 | 60 | 20 |
| 5 | 80 | 30 |

(裁判所 改題)

